年間第8週日曜日・ A年61日々の努力

一今日、疲労困憊に陥ること なく充実した日にする。神を の父子(おやこ)関係。神る 信頼し全てを御手に委ねる。 一無用な心配。いつも忠まこで あるための助けに事欠らけて あるい。一神に面を向けて 働く。想像を制して今をこ で。 が。 hic et nunc. 今ここ で。

年間第8週日曜日·A年

61日々の努力

- 一 今日、疲労困憊に陥ることなく充実した日にする。神との父子(おやこ)関係。神を信頼し全てを御手に委ねる。
- 無用な心配。いつも忠実であるための助けに事欠くことはない。
- 一神に面を向けて働く。想像を制して今を生きる事。hic et nunc. 今ここで。
- 61. 1 気遣うことなく今を十分生 きること。神の養子。神への信頼と 委託

主はミサの福音で私たちに忠告しています。「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」 $\frac{1}{2}$ 。

〈今〉、良い行いをしなさい。過ぎ去った〈昨日〉のことを思い出さず、来るか来ないか分からない〈明日〉を思い煩(わずら)わないで $_{-}^{2}$ 。

昨日の苦労が私たちに残したものす べてには、感謝するためのもっとも な理由、しかも多くの理由がありま す。つまり、神が私たちに溢れんば かりの恩恵と祝福を与えてくださっ たことに感謝するのです。仲間にも 感謝する義務を負っています。たと え小さくても、それが私たちの天の 宝に付け加わることになるだろうと 思うからです。過ぎ去る日から、 罪、過失、怠慢の痛悔と、償いの動 機を引き出します。昨日のことにつ いて、今日のミサの入祭唱の言葉で 言うとこうなります。「主はわたし の支えとなり、わたしを広い所に導 き出し、助けとなり、喜び迎えてく ださる」³。

「まだ訪れていない」明日が訪れる なら、それは私たちがこれまで夢見 たことのないほど素晴らしいことで しょう。なぜなら、神である御父 は、私たちを聖化するために明日を 準備なさいましたから。わたしの運 命はあなたのみ手にあります⁴。 客 観的に言って、私たちの気を重くさ せ、明日を煩い、心配させる根拠な んて一つもありません。突然生じて くることと戦うために必要な恩恵を 神は与えてくださるでしょう。そし て、私たちは勝利を勝ち取るので す!

問題は今日です。今日は、私たちの 生涯の生地を作り上げている多く、 小さな出来事をとおして、愛して、 です。 あるものは当然喜ばしくないです。 あるものは当然喜ばしくないです。 のものは多分あまりがたひひでしょう。 しかし、その一つないでは、 人間的な完成と超自然的ない を持ち、私たちが細工し、 磨いてい る宝を神と永遠の生命のために輝か す目的で創られたはずです。

私たちは希望的観測でぐずぐず過ご すことはできません。時々、空想的 な想像力は過去の出来事に改良を加 え、努力なしに安心を与えてくれる 未来を理想化することによって、私 たちを虜(とりこ)にします。また、 それは逆に、暗い視界、私たちを懸 念させる見通しを示すかも知れませ ん。「風向きを気にすれば種は蒔け ない。雲行きを気にすれば刈り入れ はできない | 5。それは多分もっと 良い機会が起こるかも知れないと確 かめようとして止まらずに、その瞬 間の義務を果たし続けるようにとい う招きです。使徒職においても、 もっと相応しい機会があるかもしれ ないとして計画を延期することは簡 単です。もっと好都合な状況を待っ たり、探したりしていたなら、使徒 たちの盲教はどうなっていたでしょ うか?キリスト信者がもっと有利な

条件が満たされるまで待っていたとすれば、どうなっていたことでしょう。ここで、今こそ、心を込め、行いをもって、神を愛するべきなのです。

人間的なものと超自然的なものにお いて、聖性と効果の大部分は、毎日 を一生のうちで唯一の日であるかの ように生きることにあります。日々 は神への愛で満たされなければなら ないのです。毎日は、溢れるほどの 良い仕事で終えなければなりませ ん。善を行うたった一度の好機も見 逃すことはできません。今日は再び 巡ってきません。さらにまた、神は 私たちが日々を他の人々に向ける愛 と小さな奉仕の行いで満たすよう期 待されています。私たちの守護の天 使は、私たちのこのような日々を神 である父に捧げるとき、きっと大喜 びしているでしょう。

61. 2 無用な心配。いつも忠実でいるように十分な助けを与えられるでしょう

思い煩うな - 実りのない心配なら ば私たちが恐れる不運を消し去らな いのです。しかし、愚かにも、不運 に出遭ってしまいます。私たちが、 それを乗り越えることができるため に、神が与えてくださるはずの恩恵 をまだ受けないまま、自分の重荷を 担ってしまいます。心配は困難を拡 大し、今この瞬間の義務を果たすた めの能力を衰えさせてしまいます。 何よりも、神が生涯の各状況で行わ れている神の摂理を信頼できなくし ます。今日のミサの第1朗読で、主 は、預言者イザヤの言葉でこう言わ れます。「女が自分の乳飲み子を忘 れるであろうか。母親が自分の産ん だ子を憐れまないであろうか。たと え女たちが忘れようとも、わたしが あなたを忘れることは決してないし 6。今日私たちに起こることすべて

において、神である御父は愛をもって私たちのことを考えてくださっています。

また、イエスはすでに、とても頻繁 に私たちのことを思い出してくだ さっています! イエスは言われま す。「安心しなさい。わたしだ、恐れ ることはない」⁷。今日の心配と明日 の苦労を同時に持つことはできませ ん。私たちには、今日を忠実に過ご し、今日というこの特別の日を平和 と喜びをもって生きるための十分な 助けが常にあります。明日は明日で 新しい恩恵をもたらし、明日の重荷 は今日のものほど重くはないでしょ う。一日一日にはその日の労苦と十 字架、その日の喜びがあります。私 たちの一日一日を、私たちを愛して くださる神である御父が見守ってい てくださいます。私たちは現在にだ け生きることができます。心配事は 殆どいつも、今ここですべての努力 を投入できないので生じるのです。

なぜなら、神の摂理にすべて信頼していないのですから。「主よ、わたしはあなたの望まれることを望みにないます。あなたがそれをお望みになるとですから。あなたがお望みになる限りお望みになるように望みます」と心から繰り返せば心配は消えます。。 。。そうすれば、喜びと平和が訪れます。。

時々、私たちには、私たちの生涯は 神のみ手にあることを忘れ、未来を コントロールしたいという誘惑があ るかも知れません。物語がどのよう に終わるのか知ろうと、本のページ をとばして読む、忍耐のない子ども のようにならないようにしましょ う。神は私たちに次から次へと日々 をくださいます。私たちが日々を聖 性で満たすためです。旧約聖書に は、砂漠に住むユダヤ人について書 かれています。神が日々の食物とし て彼らにお与えになったマンナを彼 らは集めました。彼らの何人かは、

神が毎日の食物として与えてくだ さったいくつかのマンナを、将来の 補給のために蓄えたいと思って集め ました。必要以上に集め蓄えたので す。ところが次の日、それらは腐 り、食べられなかったのです。つま り彼らには父親の愛で見守ってくだ さっている、神である主への信頼に 欠けていたのです。もちろん、将来 のために、賢く準備すべきです。し かし、砂漠をさまよっている間に自 分たちの努力だけに頼ったこのよう な人々のようになるべきではありま せん。

日々の仕事は希望に満ちた喜びを もって行うべきです。日々の事柄に 頭と心とすべての活力(あるいは気 力)を込めるのです。神へのこの信 頼 - 聖なる放棄 - が、私たちが行 動したり、時折々の場合に何をすべ きか見通したりする私たちの責任を 減らすことにはなりません。また、 私たちが賢明であることに悩むべき ではないということを意味するのでもありません。神への確信に欠ける、まだ起きていないことについての無意味な懸念とは純然たる対照をなしています¹⁰。だからこそ「明日のことを思い煩うな」と主は私たちに繰り返しておられます。今日という日をうまく活用しましょう。

61. 3 仕事の中に神を見る。現在 を生きるために想像を抑える

神は私たちが何を必要としているかでです。まず、神の国と神の国と神ののといるでは、他の国と神のない。そうに与えられば、他のるではないでは、はいうにはないののでは、しましたののでは、過度にないないといいないといいないののでは、過度にないないののでは、過度にないののでは、過度にないないののであるというにしましょう。

明日はすぐ今日になり、その時に注意を払いましょう。私たちは今日 ためにマンナ(食べ物)は必要だが、それ以上に集める必要はあ別の日も山ほどの別のしたさることを決ってはなりません。次の日も私たちの巡礼の日もす」「たく限り、マンナをくださいます」」「自動したものとはないません。神は私たちを見捨てることはないません。

現在に生きる私たちは、現実のことと人々に注意を払います。これは、これはます。これは、新の悪い、無駄ない悪いを費があるない。想像力は、ないのできます。できます。できますができます。できまずできます。とは、まないののこのです。できないのです。

愛のために今を十分に生きるな、 ないできるに、生きるに、 ないできるに、 のないできる細かなこれでは、 ないででは、 ができまかでするこれでですが、 かいず気ができながったったですが、 ないできないですができたりでするような、 難しないできたりできたりない。 ができたりできたりない。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 ができたりないまれる。 れの取るに足りない些細なことにおいて、私たちが自分に打ち勝つことを期待されています。特別糾明になる、このような戦いのポイントで私たちが進歩することをお望みです。

あたかもこの地上の生活における最後にできる捧げものであるかのように、愛に満ちた心で日々の〈今〉の瞬間を生きる恩恵を授けてくださいと、聖三位一体の神に願いましょう。

¹マタイ6:34

² 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』, 253参照

³ 詩編,18:19-20

⁴ 詩編,31:15

⁵ コヘレト 11:4

⁶ イザヤ, 49:15

- ⁷ マタイ14:27
- ⁸ Roman Missal, Prayer of Clement XI after Mass
- ⁹ Roman Missal, Prayer before Mass
- ¹⁰ V. Lehodey, Holy Abandonment 参照
- 11マタイ6:32-34参照
- ¹² 聖フランシスコ・サレジオ、 Letters, fragments 1 3 1, 7 6 6

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VIII-nichi-A/ (2025/12/13)